

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270300534		
法人名	株式会社ユニマツリティアメント・コミュニティ		
事業所名	いなげケアセンターそよ風 グループホーム		
所在地	千葉県稲毛区穴川3-6-12		
自己評価作成日	平成28年12月16日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	平成29年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人が笑顔でいられるように、楽しい雰囲気作りを心がけ、個人の得意分野やできる事を引き出し、活かせる場面作りを行っています。日々の体調管理に気を配り、筋力低下・予防の為にストレッチ・散歩やレクなど日々取り組んでいます。一人一人の有する能力を見極め尊厳を大切にしながら受け入れその人らしく暮らせるように一人一人のペースに合わせた支援を心がけている。本人の好きな時間や空間の提供を心がけている。9名の利用者様の個性を大事に活かせる支援をしています。入所しても今までの暮らしと変わらない支援を心がけ散歩やレクリエーションによる日々の暮らしの充実と希望に沿った外出、行事等を多く取り入れています。年間行事でご家族様を招待し夏祭り・敬老会や芋煮会を行っている。看取りも行いご家族様と一緒に最期まで充実した支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスとショートステイ併設の複合型施設の3階に1ユニットと4階に2ユニットのグループホームである。広いリビングにキャンティベランダがあり見晴らしも良く、ゆったりとくつろげる空間となっている。職員が入居者に対し「さわやかな笑顔とあいさつ・親切な気持ちと優しさ・素直な言葉遣い・清潔な身だしなみ・尊敬する心」で接することに徹し、介護計画と介護内容を確認し易く工夫した「介護援助計画表」に基づき、入居者一人ひとりが得意な事や出来ることを引き出し活かせる場面作りを工夫する等、いつまでもその人らしく笑顔で暮らし続けられるようチームワーク良く個別の自立支援に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識し、理念に沿って日々安心して生活できるようにミーティング等で確認している。 ・理念に沿って実践して行けるよう職員間で話し合いをしている。 ・散歩時等外出する場合は、地域の方へ笑顔で挨拶を行い地域の方からも声をかけて頂いている。	「そよ風から発信しよう地域の方々への笑顔と挨拶」との理念を掲げている。「さわやかな笑顔とあいさつ・親切な気持と優しさ・素直な言葉遣い・清潔な身だしなみ・尊敬する心」と入居者に対する接し方を徹底し、入居者一人ひとりがその人らしい生活を長く続けられる支援に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に行った折り、地域の方とお話したり、地域の祭りに参加している。 ・傾聴や囲碁と言ったボランティアの方々との交流を行い、活気ある施設作りを行っています。 ・近隣のお店で買い物や外食等をしている。	近くのコミュニティーセンターでの区民祭りや神社の行事に参加している。傾聴や囲碁・裁縫のボランティア、中学生の職場体験や保育園児がクリスマスプレゼントの折り紙を持って来訪している。日頃の公園への散歩や買い物では子ども連れのお母さん達と挨拶したり店員さんに声を掛けてもらう等、地域の一員としてのつきあいが広がってきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に運営推進会議に参加頂き、研修内容を伝えたり、事故報告をとおして認知症の理解や支援方法を伝えている。いつでも施設見学を受け入れている。 ・地域の方を招待する行事では介護相談も行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や事故報告等はその都度お知らせして改善策、課題を話し合い、意見や要望にはすぐ対処できるように努めている。 ・センターで行われている行事、研修、事故報告、近況等、各ユニットから報告。皆様から出た様々な意見は改善すべきはすぐ改善し要望等も取り入れるようにしている。	安心ケアセンター職員、地区民生委員、家族等の参加を得て、運営報告・事故報告・行事報告や研修報告などを議題として定期的に開催している。事故対策・地域行事の案内や看取りについて等活発な意見交換が行われており、運営推進会議を活かした取組がなされていることが議事録から読み取れる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あんしんケアセンター、地域の方、ご家族の方に運営推進会議に参加頂き意見、情報交換している。 ・定期的に開催されている会議にはあんしんケアセンター、民生委員の方々に毎回参加頂いている。	高齢者福祉課担当者とは運営面についての質問や相談を気軽にできる間柄である。安心ケアセンター職員には毎回運営推進会議に出席いただき、ホームの現状や取り組みを知って頂き適切な助言も頂いている。また、地域ケア会議にも参加し連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置。全職員が順番に参加し話し合いを行っている。議事録はセンター全体で閲覧している。又、言葉の拘束についても事業所に掲示し、意識の統一を図っている。 ・毎月身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止の研修を毎年実施している。センターの身体拘束廃止委員会を毎月開催し、各ユニットの職員が輪番で参加し伝達研修を行っている。言葉による抑制については事務所にも掲示し意識統一を図る等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の高齢者虐待、身体拘束廃止研修に積極的に申込み、多数の職員が受講する体制を取っている。又、グレーゾーンについても会議で話し合っている。 ・定期的に高齢者虐待防止についての研修を行い虐待について理解し、業務に当たるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族のご要望や病院等の受診時の申し送りを全職員に伝えながら一人一人のご利用者に沿った支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書をわかり易く説明し、納得いただいた上で入居して頂いている。解約、改定の際は口頭や文書で通知したうえでご説明させて頂いている。・看取りに関し不安がない様、御家族様とコミュニケーションもとり、確認し合っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月最終月曜日に運営推進会議をおこない管理者、ケアマネ、民生委員、安心ケアセンター、ご家族様へ出席頂き意見等をお聞きして運営に反映させている。・利用者様、御家族様からの要望、得た情報は、個人の問い合わせ、連絡帳、ミーティングで共有し、運営にも反映している。	夏祭りや敬老会の他各ユニット毎に行う芋煮会・クリスマス会・忘年会やパンやケーキ作りなど家族に参加して頂く行事を多く実施し、運営推進会議も含めて家族からの意見や要望を聞く機会が多くある。毎年家族アンケートも実施している。利用者や家族からの意見や要望はミーティング等で話し合い、運営に反映させるようにするとともに職員間で共有するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットで月1回ミーティングを行い、利用者様の対応方法や職員による要望も聞いている。月1回の全体会議を行い各セクションの意見を出し合っている。・日頃からコミュニケーションをとり、職員の意見を大切に、ミーティングでも職員が中心となり進められるようにしている。又、必要時は声かけをし面談を行っている。	毎月のユニットミーティングの他、環境・衛生・備品や防災などの委員会があり、職員が積極的に意見や提案をし、運営に反映出来るようにしている。年2回の定期面談のほか、必要時には声を掛け、愚痴も含めて職員の思いや要望を聞くようにしている。年間研修計画を立て担当者を決めて研修を実施したり、外部研修受講を奨励し研修報告書で伝達研修を行う等、職員のスキル向上に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員は年二回人事考査を行い評価表に記入している。契約、パート職員は契約更新時にセンター長による面接を行っている。・契約、パート職員にも更新時に面接し、日頃の勤務状況も含め、給与を見直し職員の思いや要望等を聞く機会を設けるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には三か月間、業務終了後研修シートを記入している。社外の研修(おむつ講習等)も受け日々のケアに活かせるようにし、研修報告で他職員に周知している。・社内、社外研修ともに積極的に受講を促進。又働きながら学びは日頃からセンター長、管理者が自らの姿勢、口頭でケアの方法を指導、アドバイスしてくれている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回のグループホーム協議会で他施設の職員と情報交換や勉強会を行い、他事業所とも連携を図り、質の向上に努めている。・社外研修に参加し、又勉強会の機会を作り、同業者と交流して情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際、ご本人の意向を第一に考えてサービスを提供することで安心して頂き傾聴を十分に行う事で少しでも不安を和らぐ様関係づくりに努めています。・入所前は必ず本人に会い面談の中で不安、要望等を把握するよう長い時間をかけゆっくりと思いを伺い傾聴するように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所、見学して頂き、ご家族様にとってより良いサービスが提供できるよう話し合い、不安点、疑問点の解消に努めている。・連絡、相談の機会を作り不安の解消、要望の聞き取りに努めている。必要な場合、個別の連絡帳なども使っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様にとって一番良いサービスの提供をする為サービス情報を活用し提案を行っています。・ご本人、ご家族様のお気持ち、および状態観察から支援を提案。入所、通所、短期入所だけでなく状況により他事業所のサービスに繋げるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の仕分けや料理、後片付け等一日の生活の中で役割を持って頂き充実感を感じて頂けるよう心掛けています。・職員の年齢により孫、子供のように接し、長年の経験から教わったり、怒られたり慰め合ったり、励まされたりと介護者、要介護者の関係を越え教わることが少なくても感謝の気持ちを忘れない。・時に冗談も言えるようなリラックスした関係作りにも努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の催し物に参加して頂きご利用者様の表情等を見る事で安心感を与えられるよう努めています。・毎月の近況報告で暮らしの様子を報告している。年間行事、日課の散歩にも参加をお願いし日々変化して行く状態を知って頂きご本人と共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来訪して頂けるような雰囲気作りに努め、手紙等のやり取りから関係の継続を図っています。・入所しても、友人、知人が気軽に会いに来られる雰囲気を作りを行っている。手紙のやり取りもして頂いている。	旅行仲間の友人や遠方から親戚や兄弟の方が気軽に訪ねてこられる。家族と馴染みの美容院や外食、自宅で泊まれる方もいる。併設のデイサービスの囲碁仲間やフラワーアレンジメント教室の仲間との関係継続の支援も行っている。ハガキを夏、冬と用意し書ける方にはご自身で書いて頂きポストまで一緒に入れに行く、電話の取り次ぎなど関係を継続できるよう支援している。携帯をお持ちの方もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションで一緒に過ごす時間を作ることで利用者様同士の関わりを持って頂けるようにしています。・個々の個性を把握して、相性によって席の配置を考慮している。利用者同士の関係が円滑に行くように、見守り、時に橋渡しを行いどんな状況でも孤立しない気遣いを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大きな行事等のお知らせを心がけ気楽に施設に来所できるようにし、日頃の相談等も受けるようにしている。・気楽に来所して頂けるよう、イベント時お声かけしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や体調の変化をくみ取り、過ごしやすき様注意している。・今までの生活習慣にできるだけ合わせたケアや、表情や様子等職員間で連携し、出来るだけご本人の意向に合う暮らしができる様に取り組んでいる。・お一人お一人の趣味や嗜好を考慮し極力叶える様に努めている。	法人独自の書式を使用し半年ごとにアセスメントを行っている。普段の会話の中で本人の声と思いを引き出してあり、入居者が「～したいなぁ」と発したことを皆で共有して実現できるように取り組んでいる。痛みや苦痛なく安心して暮らせるように支援している。入居者が買物、囲碁、フラワーアレンジメント、調理の下ごしらえなどその人らしく過ごせるよう支援している。	日々の暮らしの中で、職員一人ひとりが気付き把握した入居者一人ひとりのその時々思いや意向を書きとめ集約するよう工夫されることを期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族などから以前の暮らしぶりを聞き、今の生活にうまく活かせるように努めている。・ご本人やご家族様から生活歴を伺い今の生活に活かせるように努める。・入所時には情報を基にアセスメントを十分に行い、入所後も、ご本人との会話の中から情報を収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、時々によって違って来る状態をよく観察し気持ちよく過ごせるよう努めている。・お話の内容、表情等を観察し気持ちの良い日々を過ごせるように努めている。・常に心身、健康状態を把握し変化が見られた場合にはミーティング等で話し合い計画を見直す。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活をとおして課題となるようなことがあれば、ご家族と関係者に意見やアイデアを出して頂き、計画に反映させている。・課題が見られた場合ご本人、御家族様の希望を伺いそのうえでドクター、ケアマネジャーと話し合い必要なケアを提供する。	毎日のミーティングで情報共有している。担当者会議には家族が参加されることもある。3カ月ごとにユニットの職員とケアマネジャーとで話し合いモニタリングをしている。プランは医師や看護師の意見も反映されている。ケアプランファイル、「サービス提供内容・方法」「介護援助計画表」があり、職員がプランとサービス内容を確認しやすくなっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳を活用し、利用者の日々の変化を職員間で共有し活かしている。・毎日の申し送りによりご利用者様の日々の変化の連携が取れたり振り返ってもしている。・記録をよく把握し介護日誌はしっかり書きヒヤリハット等で情報共有する。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族からの相談、要望などにはすぐに対応し日々の生活に活かせるように努めている。・ご要望は職員間で連携しすぐに対応して、より良い生活が送れるように努めている。・要望に応じて外出、退院時の送迎等必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のレストランにフードレク等にて出掛けたり、希望によって買い物や郵便局などの外出の支援をしている。・近くの公園に散歩に行きその時の季節による変化を感じて頂いている。・地域ボランティア(フルート演奏、傾聴)他の交流を支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回の訪問と月二回の往診で医療との連携を図り、ご家族への報告を行う事で安心して頂いている。またご家族、ご本人の希望受診も行っている。・ご家族、本人の要望を取り入れ希望の方には施設提携の医療機関に一月に二回の往診をして頂いている。又、かかりつけ医院の受診をされている。・施設も往診医又は歩門看護又は施設看護師と共に小さい変化に気づき支援している。	往診医と看護師が連携しており、週1回訪問の看護師にアドバイスをもらっている。眼科、皮膚科、内科などの専門科へは家族が同行することもある。往診記録、受診記録、連絡帳にて医療情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問と週三回の看護師を配置し適切な看護を受けられるように体制を整えている。・週に一度の訪問看護により日々の疑問、不安などを相談にのって頂きその指示により行動している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際にはNS、ソーシャルワーカーとの情報交換やDr、ご家族との連携を図り早期退院に備え対応している。・入院した際はお見舞いに行き安心して頂き、ご家族様と共に病院の関係者との連携をとり、早く退院できるように調整している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期の確認を行うが、重度化した際は何度も話し合いを行い、利用者様、ご家族様が安心できるまで意向をお聞きし職員、往診Dr、訪問との連携で対応行う。・看取りについては常日頃からご家族と信頼関係を築いたうえで納得頂ける様に何度も話し合いを行い希望に沿うよう支援している。・ターミナル期に入った際は常駐看護師、訪問看護師と連携を図り充分話し合いをし心構えをもって取り組んでいる。	パンフレットに『最期までの看取りケア』を謳い、看取り介護を実際に行っている。医師の指示のもと、出来る限り苦痛を取り除く処置の補助と、苦しみ寂しさを緩和できるように寄り添う介護を行っている。ターミナル期では、医師、看護師、ご家族が参加して会議を行うとともに、往診内容はその都度家族に伝えている。ターミナルケア研修も行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルに加えセンター内での研修や医療との連携を図り対応ができるように備えている。・他のグループの事故事例等をミーティングで話し合い対応、実践できる様定期的に訓練している。・緊急時のマニュアルを整備しミーティングなどで話し合い見直しにも努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、消火訓練を行い消防署との連携をとるなどし緊急時に備えている。地域とは運営推進会議で協力体制を確認している。・災害時の対応マニュアルを作成し消防署の協力を得て避難訓練経路の確認、消火器の使い方の訓練をし安全に努めている。	『自主検査チェック票(日常)』には火気と防犯関係の項目も含まれ、各ユニットごとに毎日確認をしている。本年度は3回の避難訓練を行った。夜勤者全員が避難訓練体験済みとなっている。夜間であれば、20名の職員が10分で駆け付けることができる。備蓄は五日分以上用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ベット上での排泄介助では扉を閉めバスタオルを掛けるなど羞恥心に配慮している。プライバシーや接遇マナーの研修を行い職員の意識付けを行っている。・利用者様に対して人格、誇りを傷つけない様に声かけの際は丁寧な言葉掛けを心掛けている。・情報等、周りに配慮し職員間も注意している。トイレ時の失禁等もご利用者様に気づかれない様注意をしている。	忙しい時の言葉かけにも配慮している。接遇マナー研修では、適切な言葉遣いを徹底し、人生の先輩としての目上の方への言葉遣い、イントネーションや語尾を柔らかくするなど配慮している。各居室の施設は入居者の希望どおりにしている。明るく笑顔のあるユニットづくりを心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や自己表現しやすい様に言いやすいような気持ちを引き出せるような声かけと関係作り環境作りに努めている。・利用者様の希望に沿うように自分自身で出来る限りのことをして頂いている。・レクの際には何をしたいか等を伺い、出来るだけ希望を反映できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れと共にその中に本人のやりたいこと、得意なことを盛り込みそれぞれの生活ペースを保てるように支援している。・掃除や料理に関するお手伝いなどを状況に合わせて声かけをお願いしている。・一日をお一人お一人のペースに合わせ、日課も無理に勧めず、ご本人らしい生活をして頂くよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の訪問理美容でご自身の希望の髪型にして頂いたり、起床時は整容を促す声かけを行い外出時に着る服を一緒に選んだりお化粧をお手伝いするなどしている。洋服が汚れていたら着替え、毎日の整容を心掛けている。外出の際には外出用に着替え、常日頃ネックレスをしている方には職員が選びして頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が考えたメニューが基本だが芋煮会やお好み焼きパーティなどの食事レクも行っている。また食材を切ったり盛り付け、片付けなども職員と一緒に頂いている。・料理の盛り付けや配膳等できる方にはお願いしている。・嫌いな物は無理じいせず違う物を提供し時には出前等、お好きな物を選んでいただき召し上がって頂く。	野菜の下ごしらえ、皿洗い、皿拭きを手伝う入居者がいる。入居者と一緒にお稲荷さんや恵方巻を作っている。夏祭りには焼きそば、カレー、フランクフルト、枝豆、唐揚げなどを提供し、家族も参加した。ユニット毎に開催した芋煮会も家族参加で行った。おやつ外食レク、流しそうめん、クッキーやパン作り、お好み焼きパーティーなど食を楽しむ機会が多い。食事のテーブルには雰囲気よく花が活けられている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、排泄、水分チェックをもとに一人一人の状態を把握し水分量を確保できるようこまめに水分を提供している。・水分や食事の進みが悪い方は介助するなど、一人一人の状態を把握しその時々合った支援をしている。・水分制限のある方は食事、水分量を把握し一日を通して栄養バランス、水分が確認できるように心がけている。		
		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは自立の方には声かけし促し、介助が必要な方には職員がサポートしている。必要な方には訪問歯科を受診して頂き口腔内の健康を維持できるようにしている。・毎食後、歯磨きの声かけし見守り介助している。清潔保持の為、義歯の夜間洗浄を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンに沿い、時間をみながら尿意の無い利用者を誘導し清潔に努め気持ちよく過ごして頂けるように支援している。・立位を取れる方には立位を取って頂く等自立支援を遂行している。	拘縮している方のみおむつ使用となっている。拘縮がなければ二人介助でもトイレでの排泄支援を行っている。入院し退院後に介助しないと立位も取れなかった入居者も、その後の支援により一人でトイレに行けるまでに回復している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事を毎日チェックし、歩行や体操、マッサージなどをして身体を動かし便秘予防に心がけている。又便秘に有効な乳製品を毎日取り入れている。・自然排便を促すため食生活に乳製品をや果物を多く摂り入れている。又、体操やボールエクなど行い身体を動かして頂ける様支援している。腹部マッサージも適宜行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね週3回の入浴を行っている。利用者様に気持ちよく入浴して頂ける様支援している。入浴時間は午前、午後と希望に沿った時間帯での入浴を心掛けている。入浴剤を入れ温泉気分が味わえるようにし、観葉植物を置き目でも楽しんで頂いている。入浴拒否がある方は声かけのタイミングなどを工夫して行う。時々入浴剤を使うなどして香り、色なども楽しんで頂く。	一日おきに入浴する方もいる。ADLが低下して各フロアの入浴が難しくなった時には、デイサービスの特浴で入浴できている。入浴剤も2～3種類用意されており、自分専用の石鹸類を使用する方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の体操や散歩で身体を動かし手頂き、週3回の入浴により気持ちよく安眠して頂けるように努めている。・就寝介助が必要な方は各人に適した対応で臥床して頂いている。夜間は定期的な巡視、トイレ誘導パット交換を行っている。自立の方は任意の時間に入眠、起床して頂いている。・個々のリズムに合わせた就寝時間を心掛けている。特に高齢のかたが多いので状況に応じ日中でも横になれるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の症状の変化を見極め、その都度ナースと相談しながら服薬の支援に努めている。・薬の情報は各人のケースファイルに閉じてあり職員が理解の上服薬して頂いている。又、薬が変更になった時は状態を細かく観察し記録に残し情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、食事の準備や洗濯ものたたみ、ゴミ捨て、掃除などを一緒に行い、一人一人の役割を変化させ飽きの来ない様努めている。・一日の過ごし方は個々の希望に沿い、性格や役割を重視した過ごし方をして頂ける様に対応している。・食事作り、囲碁、体操等個々の得意分野を日御る出来る場を作り支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけ、また外食レクなどにも参加して頂いている。・外出に関しては当日の職員数を勘案して近所での散歩、外食等に行っている。利用者がどのような場所に行きたいか会話の中から汲み取り実現できるように取り組んでいる。・散歩、外出、外食と御家族様の協力を頂きながら出かけている。	週1回～3回散歩しており、職員が外出の際に同行する入居者もいる。初詣、いちご狩り、お花見、イルミネーション見学、外食などイベント外出もある。家族とお墓参りに行ったり、お正月を一緒に過ごしたり、外泊される方もいる。	全員で身近に出かける機会を更に増やそうと検討されているので、実施されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方には管理して頂き買い物の際には支払いして頂いている。・買い物に行かれた際は支払いをして頂いている。お預かりしているお小遣いの中からおやつや小物を購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状などの作成では直筆で書いて頂ける様に支援している。・希望があれば電話は掛けられるような体制になっている。・携帯電話をお持ちの方は居家で自由に使っている。八ガキを夏、冬と用意し書ける方にはご自身で書いて頂きポストまで一緒に入れに行く。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期を感じて頂ける様、かざりつけをしたり、共用空間内でも居心地良く過ごして頂ける様に工夫を行っている。・四季折々の飾り付けをし行事などの写真を掲示し会話を広げている。匂いや温度等、室温管理にも気をつけている。・台所からはいつも食欲がそそぎおいしいにおいがしている。トイレは汚れたらすぐにその場で掃除している。季節により掲示物を変えている。利用者様自身の作品やかわいい飾りをして楽しい気分になって頂く。	ベランダのプランターの水遣りは入居者が行っている。リビング併設の和室はドアを開けると広く活用できるようになっている。リビングには4人掛けのソファがあり、テレビを楽しむ方もいる。白地の壁は明るく、絵画も多く飾られている。オルガンが設置されているユニットもあり、生演奏を聞ける機会もある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを配置してくつろいで頂いたり、気の合う方を同席することで会話ができるようにしている。・リビングには皆様が座ってくつろげる様ソファを配置している。テレビを見たり話し合いの場を工夫している。又、気の合う方を隣にするなど席作りを工夫している。・利用者様は定席に強いこだわりをお持ちなので、食事や体操時には必ず定席に座っていただきいつも安心して頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真等を持参して頂き、くつろげるように、また安心して過ごせるような工夫を行っている。・自宅で使っていたタンスや椅子等を持ってきて頂き、写真等を飾り慣れ親しんだ雰囲気再現し安心して過ごせるよう工夫している。	居室入口には入居者それぞれの写真が飾られ、ドアには大きな円形のすりガラスがついている。エアコン、クローゼット、棚、カーテンが完備されている。畳を敷いている部屋、抽象画のかかる部屋もある。カラーボックス、テーブルコーダー、ラジオ、タンス、テレビ、ソファセット、加湿器などを持参されている。ADLの低下によりセンサーを使用している方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に手摺をつけ安全に過ごせるように自立支援をしている。・浴室、トイレ、フロアには必ず手摺をつけ安全に過ごせるようしている。トイレ等の名札も見やすい場所に示している。改善すべき点があれば職員が互いに指摘しあいその都度対応している。		